嶺若山法蓮寺はどこにあったか

会員　清木　素

大内弘世草創に係わる周防国三十三所観音薩埵（さった）霊場の十九番の嶺若山法蓮寺の本尊聖観音は御長（たけ）五寸三分の座像であったと伝えられている。

現在夜市普春寺に残存する「法蓮寺観音堂記」（資料の一）によれば、若山城の古墨の下に観音堂があり法蓮寺といっていた。普春寺過去帳によると、法蓮寺は新南陽市富田の建咲院二世海安全珊大和尚が勧請開山となっている。又、開基は陶弘護であるといっている。三坂圭治氏の説によると若山城築構は陶弘護が上徳地方面に勢力を伸ばしている吉見信頼に対して文明二年頃築城と思われるとある。

参照（若山城趾調査報告書　徳山市教委新南陽市教委が文化課指導のもとまとめたものに詳しく文献等により説かれている）

若山築城とほぼ同年代くらいに若山観音もできたのではあるまいかと推測される。

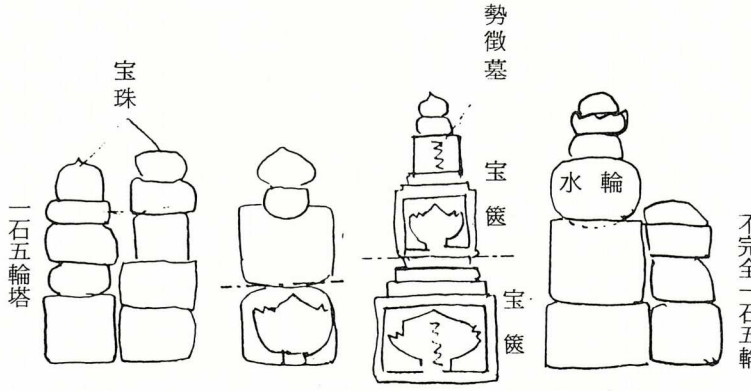
それでは若山城の墨下だけではその位置が今まで明らかにされないままであった。

その位置を推定させてくれたものは、昭和五十五年十二月当時南陽工業高校生藤原荘一、中村道陽両君が若山山中よりほぼ桃山時代と推定される僧侶の墓及び五輪塔・宝篋印塔群を見つけてくれたことであった。

飛という字が上に書いてありその下に字が見える墓を見つけたという報告を受け、両君と現場にいって拓本を取って見た。𑖡𑖲𑖨𑖽（ダラーク）権律師勢徴と大略読み取ることができた。

律師（りっし）は僧都（そうず）につぐ僧官であり、更に正律師の下である。塔身の格狭間（こうざま）は桃山時代のものと思われる。又、その下の一段と大きな宝篋印塔の塔身の部分には同様の格狭間の中央に一列陰刻の跡があるが殆んど読めない。本寺建咲院にある海安全珊（建咲院二世）の墓の格狭間と酷似している点から、法蓮寺開山の墓ではあるまいか。普春寺に開山の墓があるけれどこれは後に造られたもので無縫塔である。その側には一石五輪、宝篋印塔（不完全）𑖭𑖿（ティ）（火輪）の歴然と読める五輪塔

開山海安全珊の墓？



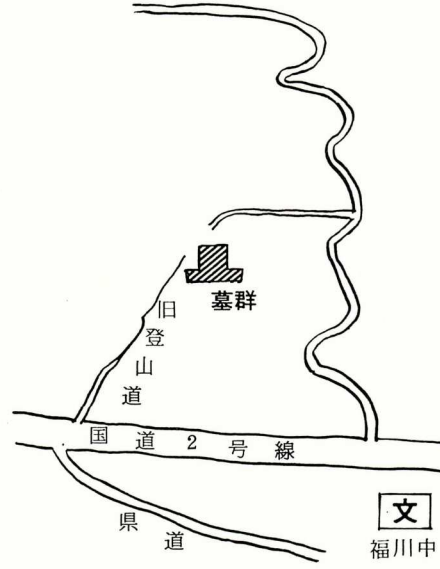
の一部、茶臼の一部と思われるものや、食器等も発見された。付近には石垣のある平地があり、水もあり、確と位置は言えないが、この付近にあったことは考えられる。

（資料一）によれば弘治元年陶氏厳島の戦に敗れ、間もなく若山落城の悲運の山颪に寺も荒れ果て、法蓮寺の見晴しも悪くなり、度々野火に遭い、寺も荒廃した。

普春庵二世鉄牛老人これを憂え、山下に移すよう配慮し、田原氏、藤井氏諸旦那の加助もあり、元禄八年八月今の普春寺境内に観音堂が移築された。鉄牛和尚は前年に突然遷化され三世祖洞遺志を継いで竣功を見たのである。

普春庵はさきに明暦二年（一六五六）覚翁春慶座元禅師開基となり当山にて二世鉄牛全樹和尚初住となる。山号は嶺若山普春庵となっているので法蓮寺はなくなり、観音堂のみ移置されたことになり、現在に至る。

福川の西部を貫流する夜市川は今も満々と湛え、豊かな詩情を浮べて静かに流れている。この川辺に（福川西の端）「くわんをんみち、これより八丁」と筆太に彫った道標が立っている。この道標は文化六年、中屋作左衛門、原源蔵が施主となっている。この八丁とはここから現普春寺への距離であり道しるべであろう。以来民間信仰としての観音信仰も庶民の間に受け継がれてきて今でも十七日の縁日にはお参りが多い。



（資料一）法蓮寺観音堂記

周防州都濃郡富田保（夜市）弥地村若山陶氏古壘下有観音堂号法蓮寺。年代既久不詳其始矣。此州三十三処有観音（霊）昊場是乃當其第十九次也。茲地昿絶無人之境屢被野火焚焼。普春庵鉄牛老人慨然憂之欲移之山下便干諸人之瞻礼則屢訴官府遂許採材木。其再興之銀料田原氏藤井氏並諸檀之所加助也。去年甲戌十月廿三日老人遽然遷化。弟子祖洞乃継先志。遂経始于十一月竣功於今茲三月。其大士像玉野氏重新寄附之。山本氏亦荘厳之祖洞請予記本末貽于后昆。乃告之曰、夫施無畏大士従

嶺若山法蓮寺、嶺若山普春寺（庵）関係年表

康歴元年	1379		大内弘世卒す
文明２年	1470		嶺若山法蓮寺創建 （陶弘護開基という）
永正17年	1520		海安全珊生まる。
弘治元年	1555	68	陶晴賢、厳島の戦で自害
天正元年	1573		桃山時代
天正15年	1587	42	海安全珊大和尚天正15.7.25.示寂 （68才）（勧請開山）（佐賀の人）
慶長19年	1614		桃山時代
寛永12年	1635		鉄牛全樹和尚生まる。
明暦２年	1656		覚翁春慶座元禅師当庵創立 （墓普春寺）
寛文２年	1662	60	々上開基（寛文２年３月15日示寂）
寛文11年	1671		当山にて二世鉄牛全樹和尚当山初住
元禄７年	1694		嶺若山普春禅庵鉄牛全樹和尚示寂 弟子祖洞継志成　伊賀移転
享保７年	1722		福田三郎右衛門資金施入33観音印刻。
寛政11年	1799		８世龍定生まる。
天保６年	1835		焼失し後再建普春庵となる。 （都濃郡誌）
天保12年	1841	77	嶺若山八世大穏龍定大和尚旧記によりこれをうつす。
明治８年	1875		龍定大和尚示寂（以前寺小屋）
明治21－36年	1888－1903		11世空外現龍大和尚現在のずし造成。
明治39年	1906		観音堂通夜堂新築
明治41年	1908		位牌堂増築

曠劫来修大慈悲行、遍衆生界故他方此界古往今来皈敬
称礼者縄々不絶況三十三処之為設也。一州一県之老少男
女尽登山渉水而欲結勝縁於大士之人、此堂既建相続
不断則不是教化之一端耶、願凡於斯堂発心勠志施財加
力之人、現世安穏福寿如意後生善処必乗大士之悲願力、尽
獲勝妙功徳。更冀佛日増輝皇風永扇君臣安穏五穀豊登
万民楽業者府君大江氏飛州太守毛利元次公執事奈古屋玄蕃
允代官作間三左衛門尉本願嶺若山普春庵二世鉄牛全樹禅師
弟子祖洞継志成之

再興施主徳地高瀬　田原清左衛門
弥地　藤井市左衛門
幷諸旦那寄進之

本尊施主　河内　玉野八左衛門
同彩飾　弥地　山本　甚兵衛
大工引頭利右衛門属甚之允両人也
旨元禄八乙亥年八月穀旦
本州都濃郡鹿王山龍文禅寺住持
明山叟傳亮記之
于時天保十二辛己年九月
嶺若山八世龍定依旧記写之

奉再々興観世音菩薩外厨子一宇
徳地高瀬村寄附主田原三右衛門充綱
右往古元禄八乙亥年八月三法利玄居士俗名田原清左衛門幷
夜市町藤井市左衛門当山諸旦那中興寄附之厨子及破損
田原清左衛門ヨリ六代之孫三右衛門充綱継其家祖利玄居
士之善志以一身之力喜捨黄金三両一歩二朱而重ネテ再
興ス焉
専冀家門繁昌子孫長久後生善所
維時　天保十二（一八四一）辛巳年（丑が正しい）九月吉日
嶺若山普春禅庵住持比丘大穏龍定叟謹誌

（資料二）普春寺過去帳（もと普春庵）

当山開山　海安全珊大和尚
天正十五年七月廿五日示寂六十八歳

本寺建咲院二世にして当山には勧請開山なり。佐賀県の人にして六十八歳にして建咲院において寂す。当寺創立文明二年開基陶氏八代弘護也。その後弘治元年陶氏ほろび依って寺も又廃す。其后明暦二年僧春慶また建立して富田村建咲院二代和尚を開山として堂宇を全し又寺の東南当て古墓の下に観音大士の遺址在り。何人の造立なるか不明。或は曰う陶氏の創むる所なり。即ち本州三十三カ所霊場第十九

番也。今観音是なり。

（資料三）　（寺社由来）

覚

一、禅宗建咲院末寺普春庵　当寺開山建咲院二代海安全珊
大和尚　天正十丁（二年が正しい）午年二代鉄牛全樹大和尚　三代天遊
祖洞大和尚　四代無参愚徹大和尚

一、嶺若山法蓮寺当国三十三番之内十九番目、観音若山ニ
有レ之候時分ハ石仏、元禄八乙亥年ニ当寺三世和尚寺
中へ移レ之只今者木仏聖観音、年数已ニ久シテ不レ詳

右之通ニ御座候以上

寛延元年辰ノ九月九日　普春庵現住無参（印）

井上武兵衛　殿

（資料四）

周防国三十三所観音薩埵霊場
正寿院道階弘世入道草創

十九番　法蓮寺

十九番同郡矢地邑嶺若山法蓮寺当山本尊聖観音御長五寸三
分之座像諚朝之作

みねたかくわけいるこころわかやまの
ふげんもんじゅもあらたなるらん
どうは二けん四めんにしむき、ほうれんじよりとのみのし
ゃううんじへ二り。

（昭和五六年九月六日例会発表）